

比較経済体制学会第54回全国大会
招待講演者



ヤン・ハノウセク教授 ご紹介

A SHORT INTRODUCTION OF
PROFESSOR JAN HANOUSEK

ヤン・ハノウセク教授略歴

1963年生まれ(現在51歳)

1990年 プラハ・カレル大学(Univerzita Karlova v Praze)より博士号取得(統計学)

1989年 カレル大学数学・物理学部に専任講師として着任

その後、プラハ経済大学講師、カレル大学経済研究・大学院教育センター(CERGE)講師、同准教授を経て、

2002年 カレル大学CERGE教授、現在に至る

この間、チェコ中央銀行主任研究員、世界銀行コンサルタント、

Komerčni banka監査役、OKD石炭会社監査役等も歴任

既婚、2児の父

カレル大学紋章



ヤン・ハノウセク教授研究業績

- 専攻は、移行経済論、比較経済システム論、応用ミクロ・マクロ経済学、応用計量経済学、統計論であるが、実際の研究テーマは広範囲に亘る
- 近年は、チェコ及び中東欧新興市場の(1)貿易活動、(2)物価変動、(3)企業金融/コーポレート・ガバナンス、(4)外国直接投資の技術移転効果、(5)企業私有化の経営パフォーマンスや生産性改善効果、(6)汚職問題等のテーマで、精力的に研究成果を発表
- 過去数年間に限っても、*Economic Change and Restructuring*, *Economic Development and Cultural Change*, *Economic Systems*, *Economics of Governance*, *Economics of Transition*, *Emerging Markets Review*, *International Review of Financial Analysis*, *Journal of Comparative Economics*, *Journal of Corporate Finance*, *Journal of Economic Perspectives*, *Journal of Financial Stability*, *Journal of Macroeconomics*, *Journal of Policy Modeling*, *Kykros*, *Review of International Economics*等の国際的査読雑誌に論文が受理・掲載されている

ヤン・ハノウセク教授研究業績(2)

- 特に, S. Estrin, E. Kočenda, J. Svejnar教授らと共同で, 2009年に, *Journal of Economic Literature*誌に発表した論文“Effects of Privatization and Ownership in Transition Economies”は, 移行経済研究者を中心に大変注目を集め, ハノウセク教授の存在を世界に知らしめることとなった
- 最近では, “What Do We Know About Microfinance at Macro Glance?” (with Nargiza Alimukhamedova), “The Impact of Bribery Environment on Firm Performance: Evidence from Central and Eastern European Countries” (with Anna Kochanova), “Measuring the Shadow Economy: Endogenous Switching Regression with Unobserved Separation” (with Tomáš Lichard and Randall Filer)等の論文を執筆されている
- 以上の目覚ましい研究活動の結果, IDEAS移行経済研究者ランキングによれば, ハノウセク教授は, 欧米の有力研究者をも押しよけて, 世界トップ95位に位置付けられている(5月1日現在, 1位はSimeon Djankov教授)
- 以上の通り, ハノウセク教授は, チェコ及び中欧を代表する応用経済学者であり, 今後の活躍が大いに期待されている